

令和元年度秋田県総合政策審議会  
第2回 人・ものの交流拡大部会  
(議事要旨)

1 日時 令和元年7月31日(水) 13:30~15:30

2 場所 総庁402・403会議室

3 出席者(敬称略)

【人・ものの交流拡大部会委員】

佐野 元彦・・・秋田ノーザンハピネッツ株式会社 代表取締役会長

関口 久美子・・・株式会社トースト 常務取締役

日野 智・・・秋田大学大学院理工学研究科 准教授

渡邊 竜一・・・株式会社アジア・メディアプロモーション 代表取締役

【県】

観光文化スポーツ部 次長 恵比原 史

次長 奈良 聡

各課課長 ほか

4. 部会長あいさつ

最近のニュースを見ていると、すごく政情が不安定なところがあり、それが観光に大きな影響を与えないか心配している。これからもいろいろな変化が起こると考えられるが、ターゲット設定や、そういう変化への対応については、フレキシブルに考えていく必要があると思う。本日は、活発な議論をお願いしたい。

5 議事

(1) 第1回部会における提言に対する県の取組状況と「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」戦略4の推進に係る施策の提言について

□石黒観光戦略課長

資料1は、第1回の部会で提案された内容と県の取組状況を取りまとめたものである。この後、県の担当課長から取組状況を簡単に説明するので、委員の皆様には、これらを踏まえ、さらなる施策にかかるアイデアを御提案いただきたい。

施策1

□成田観光振興課長 項目1・2・3・4・5・6・7

□橋本地域交通対策監 項目1

□佐藤道路課長 項目1

□石黒観光戦略課長 項目2・4

□大友秋田うまいもの販売課長 項目5

### ●佐野委員

先日の秋田魁新報に掲載されていたが、消費増税対策として、経産省を中心に10月からのキャッシュレス決済を活用したポイント還元の基盤を整備するために、一生懸命取り組んでいるが、残念ながら普及率が非常に低い状況にある。これについては、商工会や商工会議所、経済団体、市町村など、関係する様々な機関と連携しながら強力に推進していく必要がある。キャッシュレス決済を利用することで、2%の消費増税分を上回る5%分のポイント還元がある。消費増税による景気の冷え込みを抑えるための非常に大きな経済政策で、この制度を活用しなければ生活者が利用できる機会を奪うことにもなるので、生活者を守るという意味からも、行政が中心となり、県を挙げて取り組む必要がある。

秋田商工会議所において、キャッシュレス決済セミナーを開催すると、来場者は結構多く、実際に機器に触れてみて、これであれば自分のお店でも導入できそうだと感想を持つ方が多いが、会社や自宅に戻ったときに反対され、実際に行動を起こす方は少ないのではないかと。

きっかけは消費増税対策だが、キャッシュレス決済は、訪日外国人のみならず、国内の観光客、あるいはキャッシュレス決済に慣れている若い顧客を取り込むためには最低限必要なインフラであるということを理解する必要がある。消費増税まであと2ヶ月ではあるが、導入した方の体験談も交えながら、喫緊の課題として、関係機関が協力して取り組む必要がある。

### ●関口委員

海外の方が増えている中であっては、現金でお支払いになられる方はほとんどいない。観光協会や商工会等のそれぞれが所属している団体を通じて、導入に向けて追い込みが必要だと感じる。加入は、インターネットから登録できて非常に簡便なので、Wi-Fi環境がある各地で「導入サポート会」を開催し、集まった導入希望店の手続きをサポートしていかなければ、加入はなかなか進まないのではないかと。

### ●渡邊部会長

確かに、キャッシュレス決済の導入は簡単にできると思うが、私が危惧するのは、キャッシュレス決済の導入により、消費者の購買力は上がるが、レジの対応が遅ければ逆に売れなくなるなど、人的なオペレーションの訓練が必要ではないかと。

### ●日野委員

ICカードの導入について、説明にあったように事業者は収益が厳しい中で導入が難しいことは理解できるが、例えば1日乗車券等の企画券をクレジットカードで買えるなど、できるだけ現金を使わずに公共交通を利用できる仕組みを考えていく必要がある。

道路の案内表示に関しては、数も多く、整備が大変だと思うが、徐々に整備しているとの回答があったので、これからも継続して取り組んでほしい。

#### ●関口委員

夜の観光については、夕食の後に観光するのか、それとも食事の前に観光に行くのかにより、非常に集客に影響すると思う。夜桜鑑賞の場合、夕方4時半から5時ぐらいに夕飯を済ませて現地に向かうことになるので、最初から夜の観光を行程の中に入れていないと受入側が対応できなくなる。夜の観光を実施する場合、非常にタイトなスケジュールになり、その行程管理が難しくなる。受入側が、夜の観光の有効性を認識するところから始め、夜の観光振興に対する取組を拡大していくことが必要ではないか。

#### ●佐野委員

県の公式インスタグラムで、夜の観光スポットに焦点を当てて、フォトコンテストを実施することは、非常に面白い取組だと思う。羽田から川崎にかけて行われているライトアップした夜の工場群を巡るツアーが非常に人気を呼んでいる。日本人はもちろん、インバウンドにも好評であり、夜の観光ツアーなども含めた夜映えるものをみんなで探してみることも面白いと思う。

また、夜の観光振興に関しては、関口委員からもお話があったとおり、受入側が、人員配置や行程など費用対効果を考えると、なかなか踏み切れないところがあるので、例えば、実験的に角館のナイトツアーや秋田市川反探訪ツアーなどを、団体客用のオプションツアーとして旅行会社に造成してもらい、その集客力を検証してみることも実現に向けた方策のひとつではないか。実施してみることで、改善点なども明らかになるので、まずは取り組むためのきっかけづくりが必要だと思う。

#### ●渡邊部会長

次のターゲットの明確化について、もう少し細かく設定したほうが良いと前回の部会で申し上げた。対象国を決めることはもちろん、さらにその対象国の中でもどのような人を呼ぶのか、より細かく考えていくことが必要だと思う。どこから人を呼ぶのか、大きな要因としてはビザの発給要件の緩和がある。発給要件の緩和があっても、地域毎のエージェントが旅行商品の造成まで至るまでに、少しタイムラグがあるので、実際に送客が拡大してくる時期を見越した対応を検討することも必要だと思う。

今年に入り、中国は大学生の一次ビザの手続きの簡素化している。少し前には、香港も同じように数次ビザの緩和があり、2、3年ぐらい前には、中国が東北6県の数次ビザを緩和している。ビザの要件緩和の周知が進めば、ビザを取得して旅行に出かける方が増えてくることから、これもターゲット設定の一つ大きな要素になると思う。

#### ●関口委員

夜の観光の部分とリンクしてくるが、日中の観光とは全く違う夜の魅力があるからこそ、インスタグラムで多くのフォロワーがいると思う。観光分散のためにも、夜の観光

に比重を置くナイトツアーに特化することは十分に検討すべきではないか。

インスタグラムで反応があった場所は特定することができるので、その反応があった場所を、地域に情報提供したほうがいい。そのポイントをルート化しなければ、その取組が生きてこない。個人客が訪問するだけでなく、団体客をターゲットにツアー化し、その参加者自身に情報発信していただくことが必要である。

#### ●日野委員

ICT を活用した生産性向上にかかる助成等について検討していることを伺ったが、先ほどの IC カードもそうだが、多額の費用を伴うものはなかなか導入できないので、導入促進のためには助成制度も手段として有効である。その際、導入するメリットをしっかりと PR することで制度の利用促進にもつながると思う。

また、我々と事業者の想定が違うことがある。例えば IC カードによる決済を導入すると、バス利用者のデータがとれるが、バス会社からはそのデータは必要ないと言われる。事業者側からみれば、データが取れることはそれ程メリットではない。相手が認めるメリットをうまく見つけることができれば導入に前向きになり、さらに助成制度も併せて実施することで、説得力が増すのではないか。

#### ●日野委員

私は、地元が北海道の函館で、妻は秋田出身だが、私の実家に帰るときに妻からは「何をお土産に買って行けばいいかわからない」「北海道は何でもあるし、北海道のものであれば、みんな喜ぶ」と言われる。秋田にも色々とおいしいものがあり、買って行けば喜んでもらえるのではないか。他県の出身者としては、秋田に住んでいる方が魅力に気づいておらず、あまり自信を持っていないと感じる。まずは自信を持つことが大切で、買う側も買ってみたい、食べてみたいとなるのではないか。

#### ●関口委員

訪日タイ人の6割が2回以上のリピーターであり、本年10月末には仙台空港とバンコクの間で定期便の運航が開始されることから、どのようにして本県に誘客していくのが課題だと思う。旅行エージェントへの商品造成の働きかけや情報発信について、もう少し具体的に教えてほしい。

#### □成田観光振興課長

タイ航空が10月末から週3便で就航し、大型機材を使用して1便あたり300名を超える利用者を見込んでいる。定期便であるため旅行会社による団体ツアーのほか、航空チケットのみの販売もある。

現地の旅行会社に対しては、ファムツアーとして招聘し、実際に本県の観光コンテンツがお客様に売れるか見ていただき、商品を造成すれば、PR経費の一部を助成することになっている。

県としては特に冬季誘客が長年の課題であることから、雪に興味があるタイのお客様

に対し、冬のコンテンツを売り込みした上で、助成事業も絡めて誘客を図りたい。

さらに、最近話題のビッグデータを活用した取組について、例えば、タイのバンコク在住の方で 30 代の女性や、東北地方の観光のサイトを検索している方、東北地方の天気予報を見ている方、航空チケットの検索・予約をした方などに対して、ピンポイントでの情報発信できる取組が昨年あたりから行われており、できればそのような手法も取り入れていきたい。

#### ●関口委員

私の提案は、民泊や農家民宿に関して部屋数が非常に少ないので、ある程度多くの部屋数を持っている宿泊施設と組み合わせて PR したほうがいいのではないかというものである。それに対する御回答は「規模が小さく FIT による滞在に適していることから」ということであるが、そういうことではない。農家民宿の利用状況を把握されていれば教えてほしい。

#### □成田観光振興課長

農家民宿の詳しいデータは持ち合わせていない。ただ、実際に宿泊施設から伺ったところ、宿泊客の多くは旅行エージェント経由ではなく、個人のお客様であり、外国人についても、現地から直接メールで問い合わせがある。初めて受け入れる時は、本当に来るのか非常に不安であったが、マナーや支払いも含めてきちんとしているようである。

また、本県は教育水準が高いことから、教育視察とあわせて農家民宿に宿泊し、その評価がよければ、数年後に教育旅行として子供を連れてくるケースも増えている。

#### ●渡邊部会長

ジャパンレールパスの項目について、秋田独自の「AKITA RAIL PASS」は、ぜひ積極的に PR してほしいと思う。

#### 施策 2

□成田観光振興課長 項目 8

□大友秋田うまいもの販売課長 項目 8

□辻主幹兼班長（園芸振興課） 項目 8

#### ●渡邊部会長

食に関して、冒頭の二つは私の提言であったが、記載の御対応で、ぜひ積極的に推進してほしい。

その際、体験を盛り込んだ食の取組を強化すべきと考える。例えば、きりたんぼ 1 本 100 円で販売しているとして、体験が加わることにより単価が上がる。体験により記憶に残り、食を文化として理解し、地元で経済効果が生まれる。さらに体験した人たちが、情報を拡散することでさらなる誘客も期待できる。

### ●関口委員

私どもはレストランを併設して、ショップも運営している中において、秋田のものを発信していくという使命を感じており、「じゅんさい」や「いぶりがっこ」、「とんぶり」を使うが、実際に食べるとほとんどの方が購入する。試食ではなく、食事として食べてもらうことが、購買意欲を増大させている。「とんぶりであれば納豆に混ぜて食べて」といった話ではなく、実際に料理したものを食べれば、どのように食べればいいのか理解しやすいと思う。逆に、食べもらったにも関わらず、販売するものがなければ、クレームにつながることもあるので、食材の安定的な供給は非常に重要である。

いぶりがっこについては、GI登録されたことから、今後、ブランド化の確立に積極的に取り組むと思うが、品質の向上を図ることはもちろん、食感等より踏み込んで食の魅力を発信する必要がある。

### ●佐野委員

一昨日、地元の放送局が年1回開催しているシンポジウムに出席したところ、アメリカの方から山菜が面白いとの発言があった。欧米の場合、畑以外から収穫した野菜を食べることは全く想定していない。初めて食べると慣れるまでは苦みが気になるが、非常にアメージングな経験であるということで、山菜は一つの売りになるのではないかと。山菜取りも一緒に体験させることで、大きなコンテンツになるのではないかと。アジアの諸国についてはわからないが、少なくとも欧米人にとっては、畑以外から取ってきたものを普通に食べることは、すごい驚きの経験であり、これは非常に興味深いことであると思う。

## 施策3

### □ 兎澤文化振興課長 項目9

### ●日野委員

まんが美術館は、非常に珍しく、他になかなかない施設だと思うので、秋田県の売りになるように、色々な取組をしてほしい。

### ●関口委員

まんが美術館との連携について、例えば、角館の平福美術館でプレまんが企画展を開催し、増田まんが美術館では大規模な企画展を開催するなど、角館と増田の間に人の流れを起こしてほしい。角館で開催すれば、盛岡市周辺を中心とした岩手県からの流動が生まれ、発信力も非常に高まるのではないかと。田沢湖・角館は、秋田の観光地の玄関口であり、新幹線沿線もあることから、ここを起点に誘客していくことを進めることを検討してほしい。

### ●渡邊部会長

漫画を好きな人が、漫画が集積しているところに行きたいと思うことと、漫画の世界感を感じたいということとは少し違う観点だと思う。映画やドラマのロケ地の舞台になったところに行きたいと思わせることと似ていて、いわゆる聖地巡礼であるといえる。

それから、文化の発信においては、わらび座の存在を忘れてはならないと思う。毎回秋田ゆかりの偉人に焦点をあて、きちんと可視化して、ストーリー立てて伝えているので、地元の方にも、より積極的に見てほしい。

## 施策 4

### □吉井スポーツ振興課長 項目 10・11

### ●佐野委員

DNA や遺伝子の活用は夢物語のようなところもあるが、人間は成長の過程でいろいろな可能性を秘めており、競技選択のミスマッチを起こさないために遺伝子分析情報を活用する考え方があってもいいではないか。

オリパラを契機とした交流拡大については、私たちもそうだが、旅行に行く際、詳細の地域までは考えない。日本の中でも、東京、京都、北海道、九州、東北くらいであればわかるかもしれないが、東北の中の秋田県までの認識はない。ところが、タイでバドミントン競技に関わっている人たちは、日本というと美郷町となる。美郷町が日本のどこにあるかわからないが、地名は知っていてそこに行きたいと考えている人が沢山いる。また、フィジーのラグビーナショナルチームが秋田市で事前合宿を行うが、今後、ラグビーに取り組んでいる小中学生を秋田市からフィジーに派遣し、フィジーからも来てもらう。9月の事前合宿に合わせて、フィジーへの貿易投資セミナーを秋田商工会議所も協力して開催する。多くのフィジー国民が秋田のことを知ることによって、東京に来たついでに秋田まで来てくれるかもしれない。特定の地域に絞った多層的な交流拡大がインバウンドの増加にもつながるのではないか。

### ●日野委員

事前合宿については、誘客の拡大につながる良い取組であると思う。また、特に子供にとって普段あまり見たことのないスポーツを間近に見て知るきっかけになるので、上手く活用してスポーツ振興にも繋げることができれば良いと思う。

### ●渡邊部会長

競技ごとに専用設備について調査を行い、秋田県にはこういう設備があるというのを把握する必要があると思う。色々なスポーツがクローズアップされる中で、オリパラの開催を機に、専門設備があれば秋田県に来るきっかけになる可能性がある。

健康づくりに関する取組として、専門的な民間の事業者とコラボしてはどうか。例えば、茨城のある町が DHC と組んでダイエットプログラムを実施している。ある程度の

ブランド力を持つ企業と組むことが情報発信にもつながるため、そういった取組を探してみるのも良いのではないか。

#### 施策5

□佐藤道路課長 項目 12

□菅原港湾空港課長 項目 12

#### ●渡邊部会長

レンタカーを利用する外国人観光客が増加しており、外国人の目線にたちルートを検討することにより、一般的なバスツアー等とは異なる外国人が利用しやすい周遊ルートを構築できるのではないか。

また、道路の整備は県内のニーズ調査によりインフラとして整備していると思うが、観光や産業などの観点から整備することも必要ではないか。

#### ●佐野委員

クルーズ船を活用した PR について、秋田港に着いて男鹿や角館・田沢湖方面に行く方たちは既にオプションツアー等の申し込みをした上で乗船されているので、前の港から乗り込んでナマハゲに扮して PR するのはあまり効果がないように感じる。

それよりも降船もせず、オプションツアーにも申し込みをしていない乗客に対し、寄港地から近場で巡ることができる周遊ルートを開発し、乗客に対しその情報を丁寧に提供する必要がある。

次はゆっくり秋田県に来たいと思わせる仕掛けづくりを、地元の観光業者等と組んで取り組むべきである。

#### ●日野委員

道路の整備については、単に整備を進めるだけではなく観光交流的な視野があってもいいと感じる。道路は極端に言うとなすべての施策に関わってくるものだが、意外に県民の理解を得られていない部分でもあるので、道路の整備による効果やメリットを PR することで、整備に対する県民の理解につなげていただきたい。

#### 施策6

□成田観光振興課長 項目 14

□橋本地域交通対策監 項目 14・15

#### ●佐野委員

秋田に来てもらうための基盤整備の中でも、航空運賃をいかに安くするかは重要な要素である。海外に比べて日本国内の航空運賃は高く、秋田へ行くための航空運賃も高い

と言われている。海外はもとより、国内 LCC のネットワークを拡充することは非常に重要なことである。

#### ●日野委員

交通機関が多言語化を図ることは重要であるが、既に多言語表記など外国人に対応できる態勢を整えている二次アクセスについて、周知する必要がある。

地域の公共交通については、県からも積極的に情報やアイデアを提供し、各自治体と一緒に考える必要がある。

#### ●渡邊部会長

バスを利用する FIT に対して、目的地に行くためにはどのバス乗り、どの停留所で降りればいいのか、案内がしっかりしていれば安心感が出ると思う。

#### ●関口委員

エアポートライナーについては、お客様の評判が非常にいいので継続して取り組んでほしい。

#### ●佐野委員

美術館や博物館において、QR コードを活用して説明や動画が出てくるような仕組みの導入を進めるべきである。例えば、美術品の説明看板に5ヶ国語で解説を作るよりは安価に整備できるはずである。特に FIT は QR コードによる情報入手等には慣れていると思われるため、積極的に推進すべきである。また、居酒屋等を訪れた訪日外国人旅行者に向けて、料理の食べ方を動画で見せるような使い方も考えられる。

#### ●渡邊部会長

これまで何度も提言しているが、アウトバウンドの促進のためのパスポート取得率向上に取り組むべきである。

インバウンド誘客については、単純に来てくださいではなく、例えば秋田と台湾の鉄道会社同士の提携を活用するなど、ターゲットとする地域との関係性を重視することが重要である。

地域交通の確保については、免許返納への対応として、様々なインセンティブを増やしていくべきだと思うが、最後はコミュニティの中で説得するしかない。

#### ●日野委員

地域交通について、ここで挙げている自家用有償運送は、将来的に維持していくことは厳しいと思う。その次をどうするか、自動運転なのか、何なのか、そういうところを考える必要がある。秋田県が高齢化対策の先進的な事例を実施する中で、過疎地域の公共交通にかかる提案がでてくればいい。

●関口委員

先ほどの県の説明で観光ビッグデータの話があったが、今まで私たちは肌感覚でいろんなことを推論して施策を講じてきたが、データに基づいて検討できる環境になってきていると思う。ビッグデータの活用方法が非常に重要になるが、そこで求められるのが、データサイエンティスト（DS）だと思う。ビッグデータを生かすためには専門的な見識と経験のある方のアドバイスに基づき進めていく必要がある。

●日野委員

道路は、産業や観光等の様々な施策と関わっている。各分野で道路が必要であればそれをはっきり言って欲しい。こちらでもやはり道路が必要なんだと認識できる。

●渡邊部会長

本日の議事は以上とする。  
進行を事務局にお返しする。

□笠井政策監

本日は長時間にわたり御審議いただき感謝申し上げます。以上をもって、令和元年度第2回人・もの交流拡大部会を閉会する。